

# アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下手術(MED)後のスポーツ復帰に関する検討

医療法人社団南洲会 勝浦整形外科クリニック、(株)国際スポーツ医学研究所(ISMI)

稲田邦匡(Inada Kunimasa)、有馬三郎(Arima Saburo)

## 背景

アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下手術(MED、PED)の有用性に関する報告は多いが、いずれも術式の低侵襲性を示す報告であり、術後の競技復帰に関わる因子について分析した報告は少ない。そこで、当院においてMEDを施行したアスリートの、競技復帰に関わる因子について検討した。

## 対象および方法

**対象** 2007年7月から当院においてMEDを施行したアスリートのうち、術後6カ月以上のフォローアップが可能であった19例

男性 17例 女性 2例

年齢 13~50歳(平均23歳)

競技種目

球技; 6例(野球3、バレーボール・テニス・ラグビー各1)

武道; 5例(剣道2、柔道2、柔術・空手1)

マリンスポーツ; 5例(サーフィン4、ボディボード1)

陸上競技; 2例(高跳び1、砲丸投げ1)

体操競技; 1例

**方法** 手術法 Medtronic METRxシステムを使用

静脈麻酔による全身麻酔

後療法 手術後2時間で歩行・飲食許可

手術後4日目に退院

リハビリテーションは、貴志らの「超早期リハビリテーションプログラム」を参考に、実施可能な範囲で行った。

検討方法 競技復帰の可否、復帰までの期間に関して、年齢、治療経過、各種スコア、ヘルニア形態などの因子の関与を検討した。



## 結果

手術時間 平均 101分(巨大ヘルニア、2椎間例を除く 82分)

JOAスコア 術前平均 12.5 術後平均 27.4

競技復帰率 完全復帰 89.5%(17/19例)

競技復帰までの期間 術後平均 16.9週(7~36週)

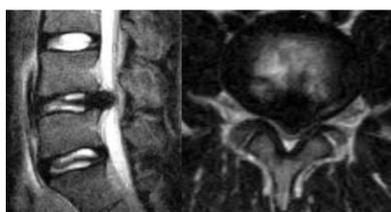
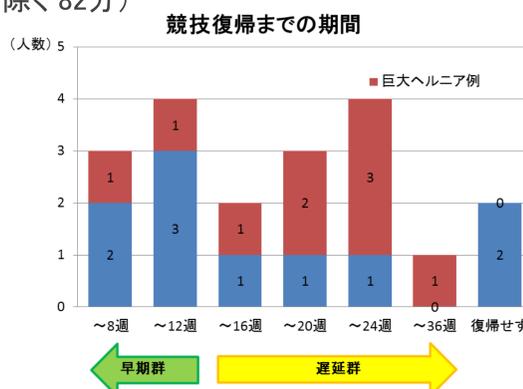
復帰できなかった理由 大学卒業のため1例

仕事が忙しいため1例

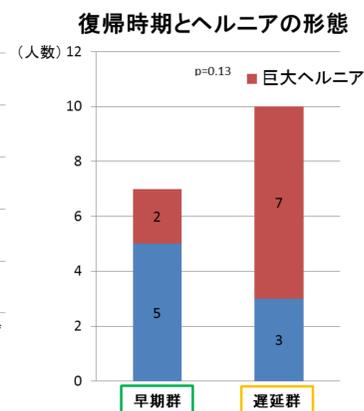
競技復帰までの期間に関して

- ✓ 年齢
- ✓ 発症から手術までの期間
- ✓ 競技種目
- ✓ 術前SLR・FFD
- ✓ 術前JOAスコア

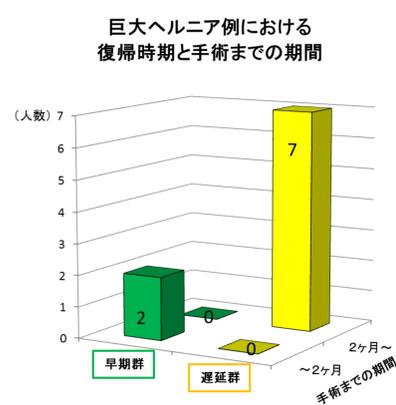
いずれも、統計学的有意差なし



巨大ヘルニア



➤遅延群において、巨大ヘルニアの割合が高かった。



➤巨大ヘルニア例でも、発症から2カ月以内に手術を施行した例では、術後10週以内に競技復帰を果たしていた。

## 考察

### ① 競技復帰率・期間など他の報告との比較

著者	手術法	症例数(例)	平均年齢(歳)	復帰率(%)	平均競技復帰期間
中村ら	MED	21	18.2	86	3.0ヶ月(1~4ヶ月)
辰村ら	PED	4	20	(100)	12週(8~16週)
貴志ら	MED	早期リハ群 15 超早期リハ群 10	17.6 20.9	(100) (100)	2.3±0.5ヶ月 2.0±0.8ヶ月
自験例	MED	19	23	89.5	16.9週(7~36週)

☞症例を重ね、また後療法の改善により成績の向上が望まれる。

### ② 競技復帰を阻害する因子

発症から2カ月以上経過した巨大ヘルニア症例では、MED術後の競技復帰が遅れる

その他、競技復帰に関与する可能性のある因子

- ✓ 後療法(アスレチック・リハビリテーションの重要性)
- ✓ 年齢・学年
- ✓ 種目特性(個人か団体か、演技系かパワー系か)
- ✓ 選手を取り巻く環境(コーチ、親など)

### ③ アスリートの診療に関わる脊椎外科医に求められること

アスリートの求めるもの

「出来るだけ早期の競技復帰」

それに対し

脊椎外科医が提供しなければならないもの

- ✓ 低侵襲な(内視鏡下)手術
  - ✓ 術後早期からの効果的なりハビリテーション
- それだけでなく
- ✓ 手術適応を見極め、早期に手術を行うこと
  - ✓ 競技の種目特性から見た、脊椎のみならず全身のコンディションの評価・指導



「スポーツ脊椎医学(スポーツ・スパイン)」という新たな医学分野の構築の必要性

## 結語

1. アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する、内視鏡下手術(MED)後のスポーツ復帰に関与する因子を検討した。
2. 発症から2カ月を経過している巨大ヘルニア症例では、術後の競技復帰が遅れる傾向があった。
3. アスリートの脊椎疾患に携わる脊椎外科医には、スポーツ医学の知識と経験が要求されると考えられた。

### 参考文献

- ✓スポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下後方手術の実際. 中村ら(日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 32(3), 2012)
- ✓スポーツ選手に対する経皮的内視鏡下髄核摘出術 - 適応とスポーツ復帰. 辰村ら(臨床スポーツ医学, 29(8), 2012)
- ✓内視鏡下椎間板摘出術(MED法)後の超早期リハビリテーション・プログラム. 貴志ら(日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 32(3), 2012)